

① 環境問題への取り組みについて

昨年8月、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）は最先端の科学的知見を基に「地球温暖化が人間によって引き起こされていることには疑う余地がない」とし、温室効果ガスの緊急かつ大幅な削減が必要との報告書を公表しました。環境問題は、問題の存在そのものもその深刻さも見えにくく、対策の必要性も成果も実感しにくい面があり、地方公共団体はそのようなグローバルな課題への取り組みよりも住民福祉の増進を優先することを求められがちではありますが、明確な事実として、これからの時代を生きるすべての人の命と健康に関わる重大かつ一刻の猶予もない現実問題ですので、行政も住民もその認識を共にし、積極的に対策に取り組んでいかなければなりません。

地球温暖化およびその他の環境問題に対する本町の認識と取り組みについて、以下質問いたします。

- (1) 本町は昨年3月に長崎市・時津町と共に「ゼロカーボンシティ宣言」を行ったが、それから今日までの1年余りで、具体的にどのような事業・取り組みにつながったか。また、その影響・効果はどのようなものがあるか。
- (2) これからは公共施設の更新などの際に、温暖化防止につながる再生可能エネルギーを積極的に取り入れていくべきと考えるが、本町の見解・方針はどうか。また、すでに「長与町新図書館基本計画（案）」の中には「循環型社会形成への貢献」として再生可能エネルギーの導入が言及されているが、具体的にはどのようなものを検討または想定しているか。
- (3) 現在、本町における汚水処理人口普及率は99.7%（下水道99.4%、浄化槽0.3%）と非常に優秀であるが、それでも水質汚濁削減と住民の利便性向上のためには残り0.3%をさらに減らす努力は必要と考える。令和3年12月に環境省の環境再生・資源循環局が公表した「循環型社会形成推進交付金（浄化槽分）」は、これまでは助成対象ではなかった便槽撤去費用および宅内配管工事費を助成対象にできるので、本町もこの交付金を活用してさらなる合併処理浄化槽転換助成・推進を行うべきと思うがどうか。
- (4) 温暖化の影響により年々豪雨災害が増加・甚大化する中、長与川下流域の住民から「いずれ越水するのではないか」との不安の声を聞いている。本来の流下能力を発揮させ水害を未然に防ぐため、県に浚渫などを要望する必要性はないか、現状と見解を聞く。

② すべての人が住みやすい住環境の維持について

本町が、町長が掲げる「住みたい」「住み続けたい」「住んでよかった」町であるためには、優れた子育て・教育環境、医療や福祉などの公共サービス・公共施設の充実、治安のよさ、交通利便性、居住快適性など様々な要素が必要ですが、この中の居住快適性に関連し、以下質問いたします。

- (1) 道路を横切るグレーチング（特に金属製）の上を車両等が通行することで、大きな騒音が発生する場所が町内に複数カ所見受けられる。周辺住民にとっては深刻な問題で、特に夜間は睡眠不足など健康被害にもつながりかねない。これまで直接所管に伝え、改修工事を行ってもらった場所もあるが、苦情の有無に関わらず、周辺住民にとって明らかに騒音と思われる箇所は積極的に調査し音が出ないように順次対応すべきと思うがどうか。
- (2) 役場そばの長与川沿いと八反田公園の南の角に「プラムタウン商店街駐車場」の案内看板があるが、プラムタウン商店街協同組合はすでに解散しており、管理者不在の状態と聞いている。駐車場は存在するが、現在は旧商店街協同組合とは無関係の民間事業者が運営している。すでに存在しないプラムタウ

ン商店街の駐車場という誤った表示がされていることに加え、景観面および腐食し倒壊する危険性の面からも、管理者不明だからとこの2カ所の看板を放置せず、町の予算を使ってでも代執行などで撤去すべきと考えるがどうか。